

『ありがとう』 を伝え合おう条例」 に反対



戸田市「ありがとう」を伝え合おう条例は、2023年度(令和5年度)の総務常任委員会で年間活動テーマとして協議することが決定しました。

党市議団は市民に対し、「ありがとう」と言うことが強制にならないよう委員会で示された条文の修正を行い、条例(案)をまとめました。

パブリックコメントを実施

委員会として、戸田市パブリックコメントを行い、賛成の意見、反対意見が寄せられました。反対の意見として「人の気持ちや感情を議会側から引き出すよう促すものではない。内心の自由を保障した憲法に違反します」「ありがとうを伝え合うことで幸せな気持ちになるという短絡的な考えはいかなるものか。ありがとうは自発的に発する言葉で、個人の気持ちの醸成であり、条例を制定する必要はない。」という意見。

思想信条の自由をおかす

他にも「条例の重みを考えたら、強制ということになる」「戸田市の教育の中で利用される可能性があり、子どもの気持ちを考えない教育になりかねない。大変、危険な条例です。」等、強い反対意見があり、市民から憲法違反であることを改めて気付かされました。

「ありがとう」と思えるような市政運営を

党市議団で話し合った結果、「ありがとう」を伝え合うことが「理念条例」であり、「強制はしない」という内容であっても、理念とは「一定の価値観」を示すことであり、市民へ押し付けることに繋がるといふこと、本来なら「議会の役割は、市民が『ありがとう』と心から思えるような市政運営を行



日本共産党 戸田市議会議員
むとう葉子

うことこそが求められている」ということを再認識し、反対討論を行いました。

賛成討論の中で

賛成討論の中で、「全会派一致で進められてきた条例に反対するとは、全く意味がわからない」という意見がありましたが、パブリックコメントで市民の意見が示された後の総務常任委員会では反対意見を述べており、委員会として立ち止まることもできたことを理解されていない賛成討論でした。

むとう葉子12月議会報告の様子

1月14日
東部センターで、むとう葉子12月議会報告が開かれ、多数の皆様のご参加をいただきました。



1. 子どもの居場所について
 2. 男女共同参画について
 3. 配偶者暴力相談支援センターについて
- など、盛りだくさんの一般質問の議事について報告・質問が活発に行われました。

日本共産党 No.72 2024年2月 東部地域後援会ニュース



いつもニュースをお読みいただきありがとうございます。ご意見、ご要望をお寄せください。

読者様



発行 日本共産党東部地域後援会
戸田市下前1丁目10-35 戸田市委員会事務所内

むとう葉子市議ホームページ

HP: <http://www.mutou-youko.com/>

E-mail: i19414034@gmail.com

TEL/FAX: 442-3599



部内資料

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぼ
日刊紙 3,497円
日曜版 930円
しんぶん 赤旗

日本共産党 戸田市後援会



今年も年明け早々、大きな地震に見舞われました。日本共産党は、能登地震災害対策本部を立ち上げ、救援募金などにとり組んでいます。よろしくご協力お願いいたします。

1月26日、通常国会が始まりました。総理の施政方針演説の前に「政治とカネ」の集中審議から始まるという異例中の異例の国会となりました。共産党は企業・団体献金のいっさいを禁止する法案を提出しました。

激動の政治情勢のなか2024年もみなさんの暮らしと平和を守るために引き続き頑張っまいります。よろしくお願いいたします。

ご案内

東部地域後援会

若葉の集い

4月中旬に予定 しています

詳しくは、議員・党員にお問い合わせください

事務所を探しています。お近くにより物件などありましたら、ご連絡ください。

子どもを性被害・加害から守るために

大人も子どもも性教育

科学と人権の「包括的性教育」を



講師は、東京都障害児学校元教員の日暮かをる氏でした。「何故、日本では、こんなに性教育が遅れてしまったのか」と、日暮氏が旧七尾養護学校で、こころとからだの

学習を進める中で起きた、「七生養護学校事件」を振り返り、今後の展望、包括的性教育の実現を目指し、グループでのディスカッションを通し、参加者がそれぞれの想いを語り合いました。

暖かな「命のトンネル」

旧七尾養護学校には、発達障害のある小学生から高校生までの子どもや保護者の事情により児童養護施設で育てられている子どもが通っており、中には幼少期から虐待を受けて自分を大切に出来ない子ども達もいました。年齢に応じた命の教育（性教育）を集団で行うことや個々の子どもの成長にあった教材を先生たちが考え、実践してきました。命が生まれる過程を科学的に伝えるための教材は、母体から産道を通り生まれてきたことを実感してもらえるよう、暖かい毛布でできたトンネルを準備するなど、ひとりひとりがかけがえのない存在としてこの世に生まれたことを伝える教材でした。

子ども達と共に語っていくこと

こうした実践が行われる中、東京都議会議員の学校視察が突然行われ、教育の内容を調査することなく教材を「不適切」として没収し、新聞社による「過激性教育」との報道がなされました。全国で行われていた「性教育」はそれ以降、委縮してしまいました。10年間の裁判を経て、勝訴した現在でも、教育委員会の委縮は続いています。教育現場の委縮について質問したところ、大人となった私達も含めて、きちんとした性に関する教育は受けていないことから、大人も包括的性教育を学び、子ども達と共に語っていくことが大切だとのことでした。

2月3日、子どもを性被害・加害から守るために『大人も子どもも性教育』と題し、科学と人権の「包括的性教育」を学ぶ会が開かれました。主催は、埼玉・協同して子育てをすすめる交流会実行委員会(埼玉県、埼玉県教育委員会が後援)。参加された方からの投稿をいただきました。

「自分であること」の安心感

最後に、自己肯定感とは「自分であること」の安心感が育つことであり、その安心感は、「自分であること」をしっかりと受け止めてくれる人がいて育つこと。誰でも弱い面も至らなさもあるし、現れ方や表し方もそれぞれ違うのだけれども「そうだったんだね」とまずは受け止めてくれる存在は、実は性教育でも大事なことでと語られました。

(市議会議員むとう葉子)



講師の先生と

「性」とは、「心を生む」ということ

旧七生養護学校の「心と体の学習裁判」の原告団長、日暮かをるさんの話と聞いてなんとなく重たい足取りで会場に向かった。

開口一番「皆さん、性とはどういうことだと思えますか」と…。性という字を大きく黒板に貼りつけて、「性」とは、「心を生む」ということなんですよ。…ああ、なるほどと、心が軽くなった。

「七生養護学校」といえば、戸田でも高柳美智子さんや大谷敏子さんが深く関わっていたなと思い起こしました。性教育を通して、「学校」「教員」「親」「子」と強く結びついていたのに、都議会で問題にされ、当時の石原都知事がマスコミを使って突然に教材が問題にされ、「処分」されてしまったのです。教育内容でなく、教材が「不適切」「いかがわしい」と。

2003年から2013年まで10年間の裁判で勝利されましたが、今まさにジェンダーの視点からも、障害児教育の現場でも生かされていないと、今なお活動されているというお話でした。日本の政治(自分も含めて)が立ち遅れていることを実感しました。

(下戸田 F. Kさん)

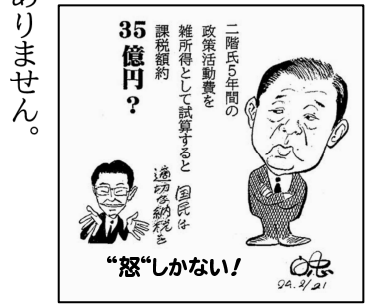
自民党裏金疑惑 国会喚問 待ったなし



2月14日、自民党は所属する、全国会議員対象のアンケート調査に続き、安倍派や二階派の国会議員らから聞き取った調査内容を公表しました。

パーティー券収入のキックバック(還流)など裏金づくりの開始時期について、安倍派では「遅くとも10年前から行われていた可能性が高い(場合によっては20年以上前から行われていたことも窺われる)」、二階派でも「少なくとも10年前からは今の仕組みや処理になつていた」と長期にわたり組織的に行われていた実態を認めました。

2万7700冊の書籍購入
二階俊博元幹事長。二階事務所は、同氏の資金管理団体「新政経研究会」が政治資金収支報告書に記載していなかった裏金の使途を公表しました。2020年からの3年間で17種類の書籍を計2万7700冊、計約3470万円分も購入したとしています。この数はまともな購入の仕方では



ありませぬ。

問い合わせに回答を拒否

日本図書館協会の統計によると、公共図書館の一年間の資料費は一館あたり平均約836万円です。二階氏は平均的な図書館を上回る数を購入していたことになりそうです。1箱に詰め込まれる本は約40冊。5000冊で125箱。議員会館の事務所にとっても入らない数です。3年で2万7700冊もの本をどこに収納したのか。「赤旗」記者が二階事務所に問い合わせましたが、回答を拒否されました。国民が一番疑問に思っている裏金づくりの目的や、本当の使い道などは明らかにされていません。国会出席に強制力を持ち、その証言をした場合、偽証罪に問われる「証人喚問」で関係者をたぐすことは待ったなしです。

皆さまの温かいご声援を届けることができました



能登半島 救援募金

能登半島地震災害への救援活動として、日本共産党は全国で党をあげて救援募金のお願いを行っています。私たち日本共産党戸田東第一支部でも1月5日から戸田公園駅を始めベルクス・ベルク・新鮮市場・ヨークマート等で各7回以上、日本共産党の旗を掲げて募金のお願いをしてきました。現在(2月17日)までに10万円を越える募金と励ましの声をお預かりし、被災地に全額お届けしています。ご協力に感謝します。しかし、復興には相当な年月とお金が必要です。

むとう葉子戸田市議と私たちはこれからも能登半島救援募金を続けてまいります。今後とも皆様のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

日本共産党戸田東第一支部 (支部長山田鉄雄)

ある日の戸田公園駅宣伝でのエピソードです。小学低学年と見られる男の子との2回に渡る募金の話です。

「おこづかい…」と小さな声で募金をしてくれました。Yさんの演説で自民党のパーティー券の話を知っていたのか、「パーティー?パーティー?」と私の目を見つめて言うのです。私は、ちゃんと地震で困っている人に届けるのよ、と答えると「優しい人ですね。」とつぶらな瞳で言うのです。僕の方がもっと優しいよ、だっておこづかいを募金してくれたんだから、と胸が熱くなりながら答えました。会話はまだ続き、「明日もやるんですか?」「おこづかいを貯めてまた来ます。」とくるりと背を向けて行きました。

それから3週間経った宣伝で、またあの男の子がやって来たのでした。日曜版の見本紙を配布していたMさんに近づき、「その記事は今、問題になっているパーティー問題を扱ったものですか?」と聞いてきたそうです。「そうだね、本を3,500万円も買ったと話題になっているね、ぜひ読んで!」と見本紙を渡したのでした。

それを大切に持ち、もう片手には硬貨を4枚握りしめ、今度は私の方に来ました。(募金は)無理しないでいいのよと言うと「大丈夫です。」と言って、また募金をしてくれたのでした。更に会話は続き、戸田には住んでいないこと、塾に来ていることを話してくれ、満足げに去って行きました。いと優しい気持ちでいっぱいになり、許されるならぎゅーっと抱きしめたいと思いました。

(下戸田 M. Kさん)